

「ICで学んで」(平成26年度)

3年 ICA 組 女子

「持ちつ持たれつ」と辞書で引くと、「互いに助けたり助けられたりするさま」という風にてできます。ちなみに英語で言うと“Give and take”だそうです。この言葉は私が過ごした ICA での日々そのものです。入学してから3年間、クラス替えがない私達のコミュニティだからこそ築けた深い絆があります。

まずはスプリングキャンプ。期待と不安の中で行われたこの2泊3日のキャンプは友達を作るためのきっかけとなりました。ICの絆の基盤がつけられたのはまぎれもなくこの時だったと思います。そんなスプリングキャンプから10カ月後、ICでの生活を語る上でははずせないイベント、ニュージーランドへの短期留学がやってきました。全員で行くとはいえ、ホームステイは一人。私は不安でたまりませんでした。知らない土地、知らない人たち、そして上手く伝わらない言葉。不安なのは私だけではありませんでした。現地の学校でICの生徒を見かけてはお互い悩みを相談し、励まし合い、奮起し、なんとか乗り越えることができました。ホーストファミリーやルームメイト、クラスメイト、バディー、現地の人たちに受け入れてもらう努力ができたのもきっとICの生徒が励ましてくれたからです。あの時、みんながいなかったらニュージーランドでの生活はこんなにも楽しい思い出になってなかったはずです。修学旅行の代わりとなった最後の2日間は言葉で言い表せないほど楽しかったです。スーパーマーケットへ行き、大きいサイズのペリエと山盛りのお菓子を買って部屋でパーティをしたことを昨日の事のように思い出します。朝はマクドナルドでマカロンとマックフルーリーのチョコレートを食べたとか、そんなどうでもいいようなことをふと思い出して、少し涙が出てきました。友達と過ごした2日間は長いようでとても短く、すぐにお別れがきました。そう、1年留学の人とサヨナラしたあの時のさみしさは今でも鮮明に覚えています。空港に向かうバスで、「さみしいのは1年いく人たちやから、泣くのはやめよう。笑顔で応援してあげよう」と誰かがポツリといいました。

月日は流れてICのビッグイベント、模擬国連がやってきました。1年留学のメンバーも帰国。2年生の3学期からコツコツと準備してきました。4人1グループで先進国、発展途上国、後発開発途上国の3つのブロックに分かれ、討論しました。私は英語力が長けている生徒ではなく不安だらけでした。だけど、同じグループ、同じブロックのメンバーはいつだって助けてくれました。私が思うICの良い所は誰かが困っている時は無条件で救いの手を差し伸べてくれるところです。だから私もみんなの為に何かをしたくなる。そういうサイクルがこの3年間で自然とできていったのではないかと私は思います。

「持ちつ持たれつ」の心はICAである私の誇りです。

「ICで学んで」(平成26年度)

3年 ICB組 女子

私が IC に入って、まず心に残った行事は NZ への留学です。初めての海外、その上に一人でホームステイ。たくさんの不安が私の中にありました。不安は現地に着いてからもあり、思うようにホストファミリーと話せなくて、最初の一週間は無駄にしていたと思います。でも日が経つにつれて、自分で話そうとしないこのままだと思って、文法がまちがっていても話しかけようと思えました。精神的にも、英語力の面でも強くなれたと思います。親から離れて6週間、短い期間かもしれないけれど、親のありがたさを身にしみて感じることができました。

そして、私の人生を大きく変えた行事は、2年の時に参加したコミュニティー・サービスです。私は京都ライトハウスで、目の不自由な高齢者の方々と交流しました。そこで短時間でしたが、車いすを押したり、談話室でいろいろな方と他愛のない話をしたりして、気づけば私は心の中で「将来、このような人達と携わる仕事がしたい」と思っていました。職員の方々も見てみると、楽な仕事ではないけれど、とても楽しそうに笑顔で高齢者の方々のお世話をされていて、その笑顔でまた高齢者の方々も笑顔になっていました。私はこんなふうに、自分が笑顔になると相手の人も笑顔になるような仕事がしたいと思いました。京都ライトハウスにおられる皆様は、目が見えないというハンデがある分、言葉や声色、触れ合うことをとても大切にしておられるし、私よりもずっと強く生きておられました。私は感動して、このような人達を支えられる人になるという夢ができました。今の私の夢は社会福祉に関係する仕事に就き、社会福祉士の資格を取ることです。一日だけの取り組みでしたが、このような夢を与えてくれたこの行事に感謝したいです。

そして、3年での集大成ともいえる模擬国連では、準備期間はもうやめたいと思うほど英語が難しく、普段は使うことがないような単語がたくさん出てきて大変だったけれど、本番を迎えてみると、レベルの高い人たちの中で自分の意識を変えることができました。中学生の頃英語が好きで、この学校に入学して、最初は全然自信がなくてできなかったことも、年月が経つにつれて少しずつ前進することができました。ネイティブの先生と関わるという環境のおかげで、今では外国人の観光客ともコミュニケーションをとることに積極的になれました。

私がこの3年間で得たものは、自分の夢にも意識にも活かされていくと確信しています。